

Kwansei Archives



Gakuin Lectures

第58回

関西学院史研究会

ミッション・スクールの建築史

日本の近代建築の出発点であるキリスト教主義の学校建築をとおして、日本近代の再発見を試みる。明治期はガーディナー、ヤン・レツル、大正期以降はヴォーリズ、レーモンドらの西洋人建築家が活躍し、その仕事は関西学院、神戸女学院、小林聖心、同志社、立教、明治学院、青山学院、聖心女学院、上智、東京女子、南山、遺愛女学院などでみることができる。これらの校舎は戦前までは日本の中等高等教育施設のお手本であり、蔦の絡まるチャペルの学舎は憧れの建築であった。明治期の木造校舎は少ないが、大正期以降の鉄筋コンクリート造校舎の半数は残っており、学校のみならず、地域のアイデンティティの一端を形成する。

講師

川島智生氏 かわしま ともお

神戸情報大学院大学客員教授。建築史家。一級建築士。京都工芸繊維大学大学院博士後期課程修了。博士（学術）。学校建築史で博士号を取得。神戸女学院大学講師、京都大学研修員、京都華頂大学教授を経て現職。近代建築史を専門として、忘れられ、うずもれた建物の掘り起こしと位置付けを担う。著書に『近代神戸の小学校建築史』（関西学院大学出版会、2019年）、『宝塚 温泉リゾート都市の建築史』（関西学院大学出版会、2022年）、『近代日本の小学校建築史』（中央公論美術出版、2024年）、『戦後モダニズムの学校建築』（鹿島出版会、2024年）などがある。

日時

2024.10.24 | 木 | 13:20 - 15:00

場所

関西学院大学図書館ホール（西宮上ヶ原キャンパス）

無料・申込不要・一般参加歓迎

主催：関西学院 大学博物館 学院史編纂室

0798-54-6022